

事例 1

工具の運用を工夫し、競争力のあるモノづくりの基盤を構築

(株)伊東 NC 工業

「挑戦」「改革」「進化」をスローガンとして掲げる伊東 NC 工業（東京都武蔵村山市）。自動車部品では主に試作開発、研究品を手がけ、トラックのエンジンやトランスミッション、足回り全般の駆動パワー伝達に関わる部品・ユニットを扱う。加工はマシニングセンタ（MC）、旋盤がメインで、研究開発向けの新設計に対応できるよう、高機能設備と高度な技術を積極的に取り入れている。

試作開発で信頼築く

同社の自動車部品製造における特色は、大手トラックメーカーの研究開発部門に社員を外向させていることだ。加工側の目線で新規開発部品の設計・製造に意見や提案を行っている。試作開発品に取り組む際、重要なのは量産時にどのように効率良く製造できるか考える点。自らも外向経験のある伊東大輔社長（写真1）は「研究開発品は1〜2個といった少量のモノづくり。少しのミスも許されない。培ってきた技術が信頼となり評価されるようになった」と振り返る。

また、自社内で行えない熱処理などの工程を協

力工場に依頼する場合、量産時の正規工程を理解していることで、部品の機能や性能について重要なポイントを伝えられる。さらに、部品納品時には加工実証データを付加するなど、トラックメーカーからトータルでの部品受注に応えられる体制を整えてきた。

工具管理のデジタル化でミス抑制

設備面で特徴的なのは工具管理を支えるツールだ。試作開発品や研究品は特殊工具を用いて加工するケースが多く、膨大な数の工具を持たざるを得ない（写真2）。工具径や工具長の測定など人的要因によるミスを抑制する目的で14年に独ZOLLERの工具管理ソフトウェア「TMS」、16年にツールプリセッタ「venturion 450」を導入。工具の情報を数値化し、デジタル管理することを進めた。ツールプリセッタで測定した工具長、補正值などの数値をプログラムに反映させて加工機を動かせる。加工した技術情報などはTMSのデ

ータベースに保存、類似部品やリピート品を加工する際に検索して情報を呼び出すことができる。

また、測定値だけでなく、工具自体にアドレ



写真1 伊東大輔社長

会社概要

会社名 (株)伊東 NC 工業
所在地 〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平 2-70-1
TEL 042-560-8415
設立 1973年
代表者 代表取締役 伊東大輔
従業員数 24名
事業内容 自動車部品の試作・開発、半導体製造装置部品、工作機械部品などの加工